

ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ

# 第39号

## 執筆者

### @短信

### 高名祐美 連載2回目

来年の3月で、定年退職となります。60歳。一区切り。きれいに今の職場を去りたいところですが、なんとなくこのまま残りそうです。それがよいのかどうか。いまさらながら、考え始めています。自分の人生を振り返ると、常に決断する時期が遅かった。そんな気がしています。そしてあっという間に60歳になろうとしています。

大学卒業後、郷里に帰ってこのMSWという仕事に就くことができました。それから現在まで、今の職場で働き続けています。それはそれで幸せなことだと。その間、たくさんの患者さん家族の方々と出会ってきました。退職したら、そんな出会いも無くなるのだと思うと寂しくなります。これからの自分の生き方を、それこそ自分で決めていきたい。そう思う今日この頃です。



今回2回目の原稿を書きました。出会った患者さんとのかわわりを、「バイステックの7原則」を意識して振り返っています。

対人援助の仕事の奥深さを、理論と実践を結び付けて論じることはなかなか難しいと感じています。

### MSWという仕事 P244~

### 大石仁美

#### 「つなぐ、むすぶ」とは

コーポラティブハウスに移り住んで丸20年が経過しました。普通のマンションは建物と間取りが決まっています、気に入った物件を買うわけですが、コーポラティブはその土地に住みたい人が集まって、どんな建物にするか、どんな住み方がしたいか、間取りはどうするか等何度も話し合いを重ねながら、設計事務所の方々と一緒に決めていくのです。決定までに4年かかりましたので、丸24年という年月があつという間に過ぎ去ったという感じです。

入居した当初は皆さん嬉しくて、花見やら、大文字を見ながら屋上庭園でピヤパーティー、みんなで庭の草刈りをした後もピヤパーティー、クリスマスは持ち寄りパーティー、忘年会、新年会での鍋パーティー等々、事あるごとに集まれば、飲んで騒いでおしゃべりを楽しんでいましたが、其々の家庭では子ども達が大きくなり、仕事も多忙になってきたこともあり、次第に住人たちの交流も影を潜めてしまいました。それでも、二か月ごとに、開催場所を持ち回りにして総会を開き、議案書を見ながら意見交流をするということだけは続けていました。

20年といえばやはり一つの節目。この度、各々感じていることを写真入りで冊子にし、同時に近場で記念パーティーを開いた次第。これがとても良かった!!

各々が生活の歴史や現状を語る中で、「へーそうだったのか、そんなことがあったの、そんなことを考えていたの」等、びっくりするようなことが沢山あり、20年の間交流の少なかった時間が一瞬で埋まったような感動を覚えました。私自身、思い込みや誤解で人を見ていた部分に気づき、大いなる反省の場でもありました。

ところで、話が飛びますが、友人に戦争論を展開している方がいて、科学の進歩は全て戦争につながっていくことを壮大なスケールで話され、人類は戦争をなくすことは出来ないという話に反論する力もな

かった私ですが、この9月に原田マハさんの「つなぐ、むすぶ日本と世界のアート展」を観て気づいたのです。一つの作品と作者、観る人の中で融合が起き、まるで化学反応を起こしたかのような衝撃がその場を貫いたとき、その場にいる人々の心に次々と伝播し、お互いに影響したりされたりしながら新しい形を生み出していく。それは巡り巡って宇宙へ無限へと広がっていく。これが「つなぐ、むすぶ」ということなんだと。

この「つなぐ、むすぶ」が世界中で大きな輪になり広がっていくことを実感し体感した人々は、戦争を阻止する力があるのではないかと。芸術が戦争阻止する。これは素晴らしい発見です。

話の初めに戻ると、ささやかですが、この「つなぐ、むすぶ」の原点は実は自分の足元にもあるような気がします。身近な人々が心を寄せ合い、お互いを認め合い、率直に話し合えること、これが「つなぐ、むすぶ」の第一歩であり、ちいさな戦争阻止の原点のような気がします。戦争論争でもやもやしていたものが、ここにきてスーッと霧が晴れたように私の中ですべてがつながったのです。

いま、ちょっとほっとして、嬉しい気持ちです。

### 病児保育奮闘記 (休載)

### 岡田隆介

私たちの脳は、ただぼんやりと過去や未来に思いをはせるとき、意外にも多くのエネルギーを使うらしい。それに対し、いまここに集中して行動するとき、もっぱらエネルギーは身体が消費し脳はさほどでもないという。

さて、「マガジン執筆の若者は“いま、ここ”の現実を描き、高齢者は“ここまで”の蓄積を綴る」説、アリかナシか。そして、「若さを保つ秘訣は、“いま、ここ”を生きること」説、マルかバツか。

### エア絵本 -ビジュアル系子ども・ 家族の理解と支援(4)- p36~

### 一宮 茂子

【日本流の「おもてなし」と外国選手の「おじぎ」】

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会は、日本代表チームの躍進もあって、世界中から注目を集めたスバラシイ大会で幕を閉じました。

この大会期間中、台風 19 号で試合が中止になったカナダの選手たちは、被災地を訪れて土砂の除去、がれきの撤去などのボランティア作業。その姿に感服。

一方、日本流の「おもてなし」は海外から好評価。なかでも印象に残ったのは、ウェールズの練習地となった北九州市は、選手の練習試合にもかかわらず 1 万 5 千人の市民がスタンドに集まって満席に。練習が始まると市民がウェールズ国家を歌って選手を迎えたのです。満員の観客のなかで選手達もやる気が出たことでしょう。練習後の選手達はフィールドの中央に一列に並んで日本流の「おじぎ」。



それを四方向に向かって行ったのです。選手達は北九州市の皆さんに感謝と尊敬の意で行ったのだと思います。北九州市民の「おもてなし」と選手達の「おじぎ」、観ていて胸が熱くなりました。

### 生体肝移植ドナーをめぐる物語 P230～

## 松岡 園子

運営しているNPO法人の活動として、7 月から塾をひらいています。現在、そこに職業訓練生として職業経験の少ない 20 代の若者や主婦の方などを受け入れ、1 人ひとりに合った訓練計画を立て、それを実践できるような機会と場をつくっています。

学習指導者になる方、広報活動を担う方、生活相談に応じる方など、その人の持つ力を発揮していただけるように職業訓練を計画して実施していくのは楽しいです。

これまでの「自分が前面に出て実践し

ていく」というスタンスから、「一歩引いて人を活かし育てていく」という役割へ変化したことで、自分自身がぐーんと成長させられているように感じます。

### 統合失調症を患う母とともに 生きる子ども P218～

## 中條 與子

秋から、仕事終わりに二つの「アフタースクール」に通った。

最初は二つのうち一つを選ぶ予定だったが、甲乙をつけることができなかった。過去に、週三回を四年間通った経験があるが、今は時間的に難しい。通いたいと思った時が、タイミングである。二つとも申し込んだ。良かった。

通う日に職場から出ると、第二週目のころは夕焼けの暖色が落ちたころだったが、第三週目あたりから、暗闇が存在している。酷暑で忘れていたが、夜長の秋がきた。そういえば、私は暗闇が見えない夜盲である。

同じ道を通るとき、明るい時間に来たときと、日が落ちて暗闇が存在する時間とでは、目に映る景色がとても異なる。また、二つのアフタースクールの場所は異なるが、とても大きな主要駅の乗り換えがある。人が溢れる時間のなか、くぐり抜けて移動するため、思うように進まない。

苦手な場所を時間の制約のなか回数を重ねて移動をすると、学習と対処の仕方を考える。別の日に、地下道や建物内の近道を見つけて、夜道については私だけの「光」を探した。曲がる場所やアフタースクールの近くにある、黄緑色や水色に発光されるコンビニや、高い建物の窓からこぼれる光の特徴や、組織の名前が光る部分などを目印にした。

無意識に光をたよって移動することができるようになったころ、一つが修了した。まだ、移動中にエネルギーが消耗されることが課題だ。もう一つのアフタースクールで課題を少しでも減らして、機会があればまた受けたい。

### 「盲ろう者」として自分らしく生きる) P238～

## 杉江 太郎

事件が起きるたびにメディアでは何かと話題となる職場で働く杉江と言います。中々、当事者として発信することに躊躇いが生じますが、この場ではキチンとこの業界の報道されることのない余地について発信したいと思っています。とは言ってもこの業界で生き抜くためには、気は抜けません。そのため情報の取り入れには人一倍気を使っています。この対人援助学マガジンはもちろん、ネットの力は絶大です。ネットがあれば、厚労省のホームページにもアクセスが出来ます。お偉いさんのお偉い話し合いを知ることが出来ます。Yahoo のアプリで、キーワード登録しておく、その記事をキャッチしてくれます。でも、でも一番お世話になっているのがツイッターです。いわゆる裏アカを作って、情報を発信しながら、情報をキャッチしていますが、援助のヒントを得ることが出来ます。新しい書籍の情報も。さらにツイッターのアカウントによる対人援助学マガジンの紹介もあります。色々なものをうまく利用して援助の質を高めていきます。

### 「余地」-相談業務を楽しむ方法-(6) P213～

## 迫 共

前回に引き続き中途失明の方を主人公にした漫画「ハッピー！」を紹介しました。

原稿を書いている途中、NHK バリバラ「見えない人の写真術」で全盲のカメラマンが紹介されていました。失明後に写真を始めたという西尾憲一さんは「見えないけど、見えるんです」と言っています。

写真を始めたころ、白杖についてカメラを持つ「あやしい姿」を見られたくないと、夜中に家の前の通りを撮ったところ、その写真を見た奥さんが「ヨーロッパの風景みたい」と。そのひと言から、見える人と写真の映り具合を確認しあい、言葉を交わしながら作品の出来映えを共有できる楽しみを見つけたのだそうです。

筆者も西尾さんのお話から「見えない人は写真を楽しめない」という固定観念が崩されました。さらには「共有できるって何なんだろう？」という新たな問いが生まれ

ました。「同じものが見えているから、共有できる」訳ではないのですね。

## 保育と社会福祉を漫画で学ぶ P210～

### 朴 希沙(Kisa Paku)

私は今の仕事を始めるまで”カウンセラー”なるものを怪しみ、自分がなろうなんて夢にも思っていませんでした。

しかし、やってみると「あれ？これ意外といいぞ(少なくとも面白い)」と驚いています。仕事するときにはなんだかしっかりしているし、思った以上に自分に合っている感じもして、まだまだ不安もいっぱいですが「へえ～！そんなこともあるもんか！」という感じ。

一方私生活では私は何か悩んだり困ったりするとすぐ人に相談します。そのために、私の周りの人は私のことを知っている人が多いですが、なかでも私のふたりの親友は私のことを私以上に知りぬいているのです。

先日もちよっと時間が出来たので、最近迷っていることをふたりに相談しました。そしたら、案の定、私以上に私を知りぬいた返事が返ってきました。

ふたりとも私とはタイプが全然違うのに…いや、だからなのかな？人のことだから、余計と愛と知性をもって理解できるのかもしれません。

よく、「自分のことは自分が一番よく知っている！だから自分を信じろ！！」なーんて言う人がいますが、私は自分のことでもよくわからないことが多く、むしろ私を知りぬいている人のほうが私についての情報や理解は確かだと思っています。

私は今のところ、仏ではなく人に頼っているのですが、他力本願なのです^^

## マイクログレーションと私たち P205～

### 浅田 英輔

実は7月から「青森県公認心理師・臨床心理士協会」の会長を務めております。いくつかの場で挨拶をしたり、会員向けに全国の動向や、会長の意見などをメール配信したりしています。そういうことをしたあとに、必ずどなたかから「意外とまじめ

なんだね笑」といった反応をいただきます。付き合いの長い仲間からは「会長っぽいメールだった。見直した笑」という反応も多いです。前に研修講師をしたときのアンケートにも「見直した」「意外によかった」といったものがありました。私の評価はどれほどまでに「下のほう」なのでしょうか！！いつまでも見直される新鮮な会長であるようがんばります。

## 臨床のきれはし P115～

### 三浦 恵子

今年には本当に災害の多い年でした。被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。

メディア等で大きく報じられる地域、実は被害が出ているのに報じられないことで知られていない地域が存在すると感じている。そして、「実は支援が必要である」という情報は、実際に地域に根を下ろして生活している人から発信され、それに共感する人々を通じて広がっていくことを実感した。

そして、そうした情報を届けてくださったことで支援の端につながる機会をいただくこともまたあるのだと思う。

#### 更生保護観音署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

## 現代社会を『関係性』という 観点から考える P198～

### 寺田 弘志

対人援助学会に初参加しました。学会があっても、「遠い」、「日が合わない」で、たいいてい参加できないのですが、今回は、「近い」、「休みだ」で出席できました。

理事長先生から学部生さんまで、たくさんの方とお話できて、とても刺激になりました。ワークショップもさせていただき、自分にもたくさんの学びがありました。本文では、ワークショップのことを書きました。

うれしかったのは、対人援助学マガジンの私の投稿を読んでくださっているという方にお目にかかれたことです。ものすごく励みになりました。

今まで、投稿していても、誰からも反応がなかったのが、果たして読まれているの

だろうかと疑っていました。

「接骨院に心理学を入れてみた」のご感想など、寺田接骨院ホームページのメールフォームから送ってくださると嬉しいです。

本文に書きましたが、患者モデル募集中です。肩こり、腰痛、症状はなんでも構いません。性別・年齢不問です。ご応募お待ちしております。

## 接骨院に心理学を入れてみた P186～

### 袴田 洋子

#### 援助職のリカバリー (休載)



### 飯田奈美子

#### 対人援助通訳の実践から (休載)

### 山口洋典

3号にわたって7月のシンポジウムを紹介しているところですが、現在、職場では2020年からのカリキュラム改革で新たに開講される授業の検討と、さらにその先の未来にある新たな仕掛けの検討にあっています。

そうした中、9月21日に、東京工業大学で開催された「教育と組織のイノベーション」というセミナーで、なかなか興味深い体験をしました。岩波新書『ワークショップ』の著者で知られる中野民夫先生が授業で用いている「えんたくん」という、直径90cmのダンボールを4人の膝の上に置いて語り合う、という対話でした。たまたま一緒にいたのが当日のゲストのお一人の溝上慎一先生でしたが、偶然の出会いのもとでの膝詰めでの対話は知恵の共有と共創を実感できる、新鮮な体験でした。(写真、日本ソーシャル・イノベーション学会夏期セミナーでの感想交流の一場面)



**PBLの風と土**  
P180~

## 関谷 啓子

退職して「森林インストラクター会」に入会。10年が過ぎた。

会員のほとんどがリタイアした高齢者である。市内の小学生たちと近くの森を歩いて自然観察の案内をしたり、依頼を受けた企業の森で間伐をしたり下草の手入れをしたりしながら、森のことを知ってもらう会である。

月に2回ほどの活動の中で、不思議な気持ちになる瞬間がある。誰かに見られているというか守られているというか、思わずフツと周りを見渡してしまう時がある。

森に入って葉の茂る天井(林冠)を見上げると、隣にある同じ高さの木の枝先に触れるまでの範囲内でしか自分の枝を伸ばしていないことが多いのに気づく。隣の木の空気や光の領域を侵さないためだと言われている。仲の良い木は友達の方向に必要以上に太い枝を伸ばそうとしないのだとも言われている。

私たちは長い歴史の中で、樹木と共にあり様々な恩恵を受けながら生きてきたはずだ。樹木は身近で尊い友人なのに、立ち止まってその事に気づくこともせず日々を過ごしてきたあと反省する。

立枯れになったり、木々が混み過ぎて下草の生えなくなった森を、明るく光が差し込む森にしたい、適度に風の流れる森に再生したいと思って毎回森に入らせてもらっている。

**私の出会った人々**  
P170~

## 黒田 長宏

台風15号と19号の両方に被災してしまい、一部損壊や避難所宿泊も経験したが、停電対策に、ポータブル電源と太陽

光パネルのセットを購入した。今日届き、これから開封だが、それまでにいくらかの不都合から幾度も別の製品を返品してしまい、初めての種類の買い物は難しいと思った。某商店のブラックリストに載ってしまっているのではないと思うほど、返品にも気を使ったが、今度は不良品でない限り、ほぼ期待に沿う選択だと思う。(10月20日) 前回はそうだったが、今日も100wの太陽光パネルのほうは、最大62wくらい出た。家庭用電源からが52wくらいだったので、瞬時にはそれより上回る。50wのものは30wくらいでた。しかし前述の2台風に加え、熱帯低気圧になったとはいえ、台風21号の余韻もひどい目に遭った。3度も被害とは大変な9月から10月だった。婚難救助隊の意識より防災意識のほうに行ってしまった時期だった。(11月8日)

<https://konnankyujotai.jimdofree.com/>

**あぁ結婚**  
P177~

## 鶴野祐介

今年も我が家の八朔の実がきれいに色づきました。収穫の日が待ち遠しいです。

**うたとかたりの対人援助学 (12)**  
P173~

## 山下桂永子

遅筆なもので、毎回ぎりぎりまであーだこーだ悩みながら、見えない評価を気にしながらも、それでも結構思うがままに書き連ね、気がつけば12回続けさせてもらってきたのですが、今回は休載させていただくことになりました。

あまりこつこつ型ではないものの、続いていることは結構あって、17年目の今の仕事や、12年続けてきた町家合宿(干支一回りもやってたのかと今気付いたり)は、始めたころは続くとも思っていなかったし、そのときそのときでやろうとしたことに一緒にやってくれる方々がいて、気がつけば続いていたという感じでしょうか。

一旦はじめてしまうとなかなかやめられないということありますね。何かを始めることも続けることも難しいけれど、やめることも難しい。惰性で続けていけるものでもないし、自分の中でバージョンアップをし

なければと思うこのごろです。

**町家合宿 in 京都 (9)**  
休載

## 尾上明代

この時期は毎年、魔の季節です。風邪は原因か結果か…反省しきりですが、しばらく体調が整わず、今回の原稿はお休みさせていただきます。

セルフケアの一環として(体調の良し悪しにかかわらず)月一回、整体を受けていますが、最近、整体師の方に砂糖を使った甘いものを辞めるよう勧められました。甘いもの大好きな私は、チョコやアイスクリームなしの生活は難しく、「もしもこれから一生、一口も食べられなかったら…」と想像してみるとそれが如何に難しいかと思いが知らされます。完全永久に禁止することと、最悪の事態を避けながら減量していく、それぞれの功罪はいろいろ議論となっているところでは。

折しも今日は自分の誕生日。さっき宅急便で友人からプレゼントが届いたので、包みを開けると、何と虎屋の羊羹でした…！自分で買うことはないものだし、年に一度の誕生日だし、友人の気持ちも無にできないし…と、「ハームリダクション」になぞらえて、いただきましたが、手放しで「おいしい！」と叫べないような複雑な気分でした。美味ではありましたが。

**高齢者とのドラマセラピー**  
休載

## 小池英梨子

ジェラートアイスとホットコーヒー買って、るんるんで食べ始めた瞬間にお客さんから電話。電話終わって席に戻ったらジェラートが溶け溶け。しゅんとしながら中の方に残っているまだアイスの部分を発掘していたら、見かねた売店のおばちゃんが「内緒やで！」ってアイスいっぱい追加してくれました。幸せ。そんなおばちゃんに私もなりたいです。さて、今回は大学ねこシンポジウムと大学ねこ連盟について書きました！

**そうだ、猫に聞いてみよう**  
P159~

## 松村奈奈子

「瀬戸内芸術祭」略して「セトゲイ」に初めて行って来ました。島の人々とも交流できて、楽しかった。特に思い入れのあったのは「大島」。ハンセン病の療養所のある島です。「セトゲイ」がなければ訪れる事は無かったかもしれません。アーティスト達がちゃんと入所者さんと交流して感じた「悲しみ」「怒り」などの様々なメッセージを、島の中に点在する作品を通して我々に伝えます。芸術ってスゴイと再認識しました。帰宅してすぐ、ハンセン病の療養所に関する本を数冊購入しました。島の中に、療養所の歴史の展示室がありました。そこには「ひらがな」で書かれたパンフレットがあり、子ども達が来ているのかなと思ったので、香川県出身の患者さんに聞いてみました。すると「先生らは行ったことないんですか？」「僕らはみんな小学校の時に行くんです」と答えます。恥ずかしいですが知らない事ばかりでした。ほーんと、行ってよかったです。

精神科医の思うこと  
P142～

## 柳 たかを

### 祖母の漬け物

子供の頃、漬け物の小さな甕が台所の隅にあった。当時、漬け物の世話は共働きで日赤の看護婦勤務で留守がちな母に代わり家で仕事をしている父の専門になっていた。

父は和歌山県の安珍清姫縁起で知られる道成寺出身でぬか漬けが好物、父の祖母が元気な頃には、地元名産の夏ミカンや旬の野菜とともに、発酵食品の鮎寿司とタクアンの漬け物が一緒に送られて来たものだ。

包みの中から祖母が漬けたタクアンの漬け物を見つけると子供の頃を思い出す。包みは父はすごく嬉しそうにしていた。包装の新聞紙を開くと褐色で一瞬腐ってるのかなと思う独特の芳香を漂わせるタクアンが姿をあらわした。僕は最初「くさいな！」と腰が引けた。我が母が近所の市場で買って来るタクアンとは匂いも色も全然違っていただけだ。

上手に漬けられた漬け物の旨さは一言で表現するのは難しい。このタクアンの

漬け物のおかげで僕は「酸っぱい・苦い・辛い」といった単純に舌で感じる味覚とは違う「心地よい臭み」といった嗅覚も含んで味わう発酵食品の世界があることを教えてもらった。

今、時間があるのでDIYの木工や庭木の剪定などを楽しみながらやっている。ある時、そんな素人大工作業をしながら漬け物好きだった父のことを思い出しているうちに、ふとあの臭くて旨いタクアンのことを思い出した。それ以来、むしように旨い漬け物でご飯を食いたいと思いはじめた。

それで月の半分を一人で自炊して過ごす奈良の家で、簡単な一夜漬けを漬け始めた。あの独特の芳香を漂わせていた祖母の漬け物には比べものになりませんが、朝食にあたたかいご飯にそえる自分で漬けた大根・茄子・キュウリの糠漬けを味噌汁と一緒に食しながらなんとも言えないくつろいだ時間を過ごしています。



そして頻りに漬け物を食すようになってからパン食が激減、これまで以上にご飯(玄米を含みます)を美味しく感じるようになりました。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ  
P151～

## 齋藤 清二

たいへん申し訳ありませんが、今号も休載させていただきます。言い訳めいてしまい心苦しいのですが、12月から1月にかけて、学部生の卒論締め切りと大学院生の修論締め切りが重なり、その指導に追われている状況で、その間に授業準備や講演などが入るため、さすがに仕事量の限界を感じております。

しかし、それではそのような状況が苦痛かという決めてそうではなく、特に学部生の卒論指導は、私にとっては初めてかつおそらく最後の経験になると思われるので、わくわくしながら彼らの作品(卒論)

を共同制作しているような楽しさを味わっています。

ご存知の方も多いと思うのですが、医師の教育課程には卒論も修論もなく、私が他人の論文指導をしたのは、博論が最初という、通常のアカデミズムでは考えられない順序になっています。2年前から学部生の卒論計画と一緒にたてたり、進捗状況をチェックしたりする仕事は、私にとって新しい経験(もちろん学生にとっても研究論文を書くということは生まれて初めての経験)なので、本当に面白いです。指導教員はどのようにあるべきかという問題にももちろん正解はないのですが、色々な立場から卒論や修論と苦闘するたくさんの学生を見てきたものとして、現在考えている卒論・修論の指導教員の立ち位置は①学生が研究を通じて学習を進めるプロセスの証人(witness)となること、②学習の最近接領域を共有し、足場づくり(scaffolding)の作業を支援すること、だろうと思っています。

「あ！萌え」の構造  
休載

## 小林茂

前回、大学教員になっての雑感を短信に書いてみたが、大学教員の生活も大学経営の影響を受けつつ、学習困難な学生への配慮、トラブルの解決、就職のための進路指導(誘導?)、出席管理やら、高校の先生か専門学校の先生のような業務がたくさんあることを知った。たぶん、これは自分が学生として大学という機関にいた頃にもあったのかもしれないが、これほど時間と労力が必要になるとは想像できないものだった。

そんなこんなで、講義と研究の大学教員の主務であるという幻想はなくなった。次年度は、月曜日から金曜日まで毎日講義が入っており、半期だけでも10コマ程度予定している。それ以外に、実習指導や面接SVがある。どうも受け持ちが多い気がしてならない。教員個人の作業となる研究はできるのだろうか。他の同僚たちは、科研費も得て研究作業をしているが、上手にやりくりする能力にたけているのか。不思議でならない。

<温泉紹介>  
☆利尻富士温泉

平成8年に日本最北の離島から温泉が発掘されました。自然温泉槽(内湯)、ジャグジー、サウナ、露天風呂、うたせ湯、レストラン、休憩談話室、コインランドリー、自動販売機があります。地元の方が多く、静かな環境です。

料金:大人500円(中学生以上)

温泉質:ナトリウム塩化物、炭酸水素塩泉(源泉 41.3℃)

泉温 加水なし

浴用適応症:神経痛、筋肉痛、慢性消化器病、慢性皮膚病など

営業:5月 正午~21時 毎日営業

6月~8月 11:00~21:30 毎日営業

9月~10月 正午~21時 毎日営業

11月~4月 正午~21時 毎週月曜日

休館日

### 対人支援 点描

P139~

## 中島弘美

「そろそろ起きなくっちゃ」と思いながらウトウトしていると、ゴーンという地響きと同時に激しい揺れ・・・阪神淡路大震災でした。



被災したことで、人生って何があるかわからないわ！本当にやりたいことを自分なりのスタイルでやろうと決心！勤めていた家族療法の相談機関をやめて、その年の秋にカウンセリングオフィスをスタートさせました。

2020年は、1995年の震災の日から25年です。四半世紀です。地震とオフィスは同い年。長いこと対人援助の仕事に関わらせていただいています。ありがたいです。この年齢や経験だからこそやることは何かを考えつつ過ごしています。

### カウンセリングのお作法

P30~

## 藤信子

## 休載

## 団遊

本稿でも紹介したアソブロックファンクラブで「中間管理職サミット」というイベントを開催した。中間管理職による、中間管理職を救うためのイベントで、集まった8人が自らの状況を振り返りながら現状をあれこれと話した。どうして中間管理職はこうまで多忙で追い込まれ自殺をするのか、という話題の中で、癌は「見える化」ではないかという話になった。

社員の行動から商談の進捗まで、あらゆるものが見えてしまうことで、経営者は近視眼的になり、本来考えるべき未来のことはそっこのけに現場介入ばかりしてしまい、結果的に板挟み度合いが増しているというのだ。

確かに「見える化」は、ぼくが長年携わっている幼児教育の現場でも被害をまき散らしている。教育効果の見える化から、保育室内の見える化まで。その結果、近視眼的な保護者が増え、幼児教育に携わる教諭や保育士を疲弊させている。

見える化が進むと言うことは、見る力を奪うということと同義だ。見る力を失うことで60人も退職している保育園に平気で我が子を預け続けたりする。我が子が殴られてから騒ぐ親も、「そういえば怪しいと思っていました」とコトが起こってから覆面インタビューに答える親も、見る力を奪われたなれの果てだ。見る力を失うことで、信頼できる相手か、信頼できない相手かを判別することができなくなる。

経営層から信頼ではなく責任ばかりを与えられ、残業禁止の影響で部下のフォローに駆けずり回り、パワハラを恐れ強く指導もできず、毎日帰宅は午前さま。「そりゃ死にたくもなるよね」というのが今日の日本の中間管理職像だと改めて感じた。

### 人を育てる会社の社長が、

今考えていること

P28~

## 村本邦子

東日本・家族応援の十年プロジェクトも、はや9年目を終えようとしている。しかし、復興を待つまでもなく、次々と新たな災害が襲ってくる。あちこちでトラウマ関連の

支援者向け講演をする機会があるが、この頃、「人生はトラウマに満ち満ちている。それでも人は生きている」をキーメッセージにしている。生きるのは大変だ。でも、だから面白いとも言える。嵐のさなかで笑うのは難しいけれども。

### 周辺からの記憶 —東日本大震災 家族応援プロジェクト(22)

P~

## 國友万裕

今日(11月23日)、対人援助学会の大会で、8回目のポスターセッションが終わりました。今回がポスター発表は最終回です。

僕の発表はよほど男性ジェンダーのことが詳しい人でなければわからない、マニアックな発表なので、関心を持ってくれた人はほんの少数人でしたが、僕の言わんとすることはわかってくれました。

これまでポスターセッションでは、僕の人生を辿ってきたのですが、今回は50代になって、どうにか自分の男としての性自認ができてきて、「男らしさ」へ向けてのエクソダスが成功するところをポスターにしました。若い頃は暗中模索だったけど、50代になってから自分のアイデンティティができあがってきて、ハリウッド調のハッピーエンドともいえる展開です。

とはいうものの、まだまだ人生長い。まだ、これから一山ふた山待っているだろうなあとと思います。これまで、「男」を拒否してきた僕なので、これからはちょっとだけ「男」になってみようかとも思っています。

この8年間、毎年村中正先生に付き合っていたいただいて、僕の人生の整理をしていただけたことは感謝しています。

これからも「男は痛い！」は続けていきます。皆さん、よろしく願いいたします(笑)。

### 男は痛い！

P99~

## 古川秀明

何かをレクチャーするだけの研修会ではなく、家族造形法は参加者全員が関わられるので、参加者から「退屈した」という感想は出ません。楽しさの中に学びがある研修会を心がけています。

### 講演会&ライブな日々

## 西川友理

京都西山短期大学で、保育士・幼稚園教諭の養成をしています。それから、支援者に向けた当事者研究会や勉強会を定期的に開催しています。

11月23日に開催された第11回対人援助学会。このマガジンで『接骨院に心理学を入れてみた』を連載中の寺田弘志先生のワークショップに参加しました。そこで伺ったのですが、肩の筋肉の状態は、人によって全然違って、細かく数えると、なんと60万通りもあるらしいのです。当然、肩こりに対する施術も一人一人違います。

正直、人の体のパーツなんてほとんど変わらないのだから、「肩がこる」というパターンは数パターンだと思っていました。テレビでよく「肩こり解消法」として紹介されている運動も単純なものですし…。しかし、よく考えれば人の人生はそれぞれ違うのだから、動かし方も、感じ方も、その治し方も違いますよね。

寺田先生は「筋肉の状態、肩こりの状態は、人によって全く違います。まず減多なことでは同じ症状の人、同じ施術が必要な人に出会わないですよ」とおっしゃっていました。

対人援助分野でない人に「人の支援なんて、大体やることいっしょでしょ」「やらなきゃいけないことはきまってるんだし」「要は衣食住が満たされることを考えればいいでしょ」と言われて「いやもう同じ人なんかおらんって！」「そんな単純なものじゃないって！」と思うことがよくあるのですが、今回、この経験で「あ～、こういうことか！」と思ひ知らされました。

福祉系対人援助職養成の現場から  
p 67～

## 坂口伊都

娘の友達の友達がノラちゃんを保護して、猫のボランティアをしている娘が呼ばれ動物病院に行ってくると連絡が入りました。その猫は、そのお友達が保護してくれると聞いていたのですが、娘と一緒にノラちゃんが帰ってきました。全身でゴロゴロいう人懐っこい子でした。

娘も受験前に押し付けられ怒りまくっていましたが、警察と動物愛護センターに迷い猫の届けがでていないか、保護された辺りに貼り紙がないか探し、猫のために動いていました。届けは見つからず、こんな人懐っこいノラもいるのだなと感心しましたが、食べ物に対する執着は凄まじく、人間が食べているものを全て舐めようとしていました。逞しい限りです。

娘の友達の友達が引き取るまでの1週間を我が家で過ごしましたが、名前がな



いと不便なので名無しのゴンちゃんと呼んでいたが、娘が「ゴンザレス」と呼び出しました。我が家の先住猫は、ゴンちゃんがいる間、威嚇したり、ストライキを起こし2階から降りてきません。ゴンちゃんももらわれてから、もういないよと知らせるのも一苦勞でした。ゴンちゃん、食べ過ぎずに元気でいてね。

養育里親～もうひとつの家族～

P124～

## 河岸由里子 (臨床心理士)

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

昨年の胆振東部地震から、1年余りが過ぎた。現在も、三町(厚真、むかわ、安平)の支援に関わり、むかわ町穂別地区のスクールカウンセラーもしている。穂別地区には仮設住宅は無いが、他の地区には仮設住宅が今もある。東日本大震災の時も同じだが、仮設から出ていける人、行けない人、様々な差が出てくるのがこれからである。家が壊れたがそのまま住んでいる人、家を建て直した人、持つもの、持たざる者の差は、関係性にも影響してくる。

仮設住宅があるというだけで、何か被災地という意味合いが強く、仮設に住んでいる人は被災者というラベリングの中にいる。もちろんその通りなのだが、支援がこれからどんどん減っていく中で、いつまでも、被災地・被災者とされるのもどうなのだろう

うと思うときがある。仮設に住んでいる人々が、一人抜け、二人抜けと減っていく中で、残される者の気持ちを考えると心が痛い。しかも、いずれ仮設住宅は取り壊される運命である。すべての被災者が安定した住居を得、一日も早く落ち着いた生活が出来るようにすべきだろう。

この様な中穂別地区は、みなし仮設に被災者全員が入ることが出来た。公営住宅が空いていたのもある。今現在は無料で入っているが、そうしてられるのは3年間と決まっている。その後は家賃を払うことになるが、公営住宅は所得制限もある。お役所仕事で法律や規律通りに追いつくということはないことを祈るのみだ。新たに住む場所を見つけようにも、高齢者が多い中、そう簡単に家を建てることもできないだろう。

また、地元で被災しながら支援者として頑張り続けている役所関係の人々への負担をどう軽減するかも課題である。やれ調査だ何だと、保健師さんたちは多くの業務に振り回されてきた。日常の業務をこなしながらの話で、本当に大変だと思う。三町支援をしながら、もっと良い方法は無いのか、こんな調査が本当に必要なのかと考える。全戸訪問も、日中働いている家族に会うことは難しい。だったら夜行けというのか？1年以上たって、まだまだ落ち着かない。災害を忘れないことは大事だが、9月1日の防災の日に加えて、9月6日も防災訓練をするのはいかがなものかと思っていたのは私だけだろうか？何か納得がいかない中、日々の支援は続く。

境界あれこれ

P74～

先人の知恵から

P164～

## 岡崎正明

我が家のお風呂は大抵子ども3人が先に入り、それから2～3時間ほどして子どもを寝かしつけた妻が、さらに1時間ほどして仕事から帰宅した私が入るのが定番となっている。最後の私はほとんど「足湯とウォッシュレット状態」(体育座りの格好になると、湯に浸かれるのは足首から下とお尻のみ)もザラで、時々入浴しながら息を殺して泣いている(というのは嘘だが)。

さらに問題になるのが湯質。別に温泉にしるとかそんな贅沢な話ではない。どうも子どものうちの誰かが(というか8割がた長男の犯行のようだが)、湯船で「おしっこ」をしているようで、それが時間が経つとモノスゴク臭いのである。

何度も注意をしたり、ときには罰(おやつ抜き)を設けたりと対策してきたため、以前よりは減ってきたものの、それでもたまに「やりやがったな」という日がある(イイ感じに白濁しているのを見てもすぐ分かる)。

これは各家庭の文化や、個人の価値観で差があるだろうが、うちの夫婦はお風呂で子どもが尿意をもよおした際、「洗い場でしてしまいな」が許容できるタイプである(「えー!」という人もいるかも知れませんが、タモリさんは「風呂場でおしっこは気持ちいい」と公言しており、それを支持する人は思った以上に多いはずだとどこかで述べていた)。それもあってうちの子たちは、たまに洗い場でおしっこをし、かけ湯で流したりする。そんな「風呂場」と「おしっこ」の敷居の低さが招いたトラブルなのかもしれないと思うが、実際他の家でもわりとありがちなトラブルなのか?それともレアなケースのほうなのか?

家族というのは素晴らしい話もあればひどい話もあり、そしてこんなどうでもいい話も、しょうもない話もあったりするのだと思う。似たような経験のある方、いたら教えてください。

### 役場の対人援助論

P111~

## 大谷多加志

最近読んだ本の中で「ぼくはイエローで、ホワイトで、ちょっとブルー」(ブレイディみかこ著)は、良い意味でなかなか衝撃的でした。書店でもベストセラーの棚に並んでいるので、読んだ人も多いかもしいない。文章のうまさ、息子や友人・その家族をみる視点の豊かさ、社会を構成する一市民としての意識の高さと広さなど、さまざまな点で感嘆した。

対して、たまに何かを書いたり、子どもを育てたり、地域の人も関わりながら暮らす我が身を振り返ると、身が縮むような情けなさ、心苦しさを感しました。著者が家族と交わす会話を見ても、自分が家庭

や職場で、これほど中身がある話を、きちんと意味を共有しながら扱っていくことができるだろうか…と頭を打たれた思いでした。

「多文化共生」と言われるようになってきた現代。文化や生まれという根っこの部分で違いを持つ人同士が、本当の意味で共に在るためには、今日の前にある状況や相手の言葉をきちんと扱っていく力と、エンパシー(相手の立場に立つ)の力が必要なのだと思う(エンパシーについては本の中でも取り上げられていますので、ぜひ読んでみてください)。

旧来型の社会・経済の構造が、人口減少という代えがたい事実のもと縮小していくしかない日本において、それでも前向きに将来を語れるとすれば、現状をきちんと認識し扱い、話し合うことからしか、始まらないのではないのか。我が国の立派な大人が、嘘と詭弁ばかりを垂れ流している様子を見ると、暗澹たる気分にならざるを得ませんが、まずは身近で手が届くところから、小さな一歩を重ねていこうと思う。

### 新版K式発達検査をめぐって

P118~

## 馬渡徳子

九月末で定年を迎えた連れ合いと、「豪華客船クルーズ、日本半周の旅」に出た。

二人揃って、ささやかながら、「退職金という名称の『後払い賃金』」を手にしたことで、思い切って、連れ合いの提案で、結婚35周年記念に、自分たちへのご褒美に、人生初の「贅沢」を決行することにしたのだ。



義弟家族が、出発前日に定年祝いの宴席を設けてくれたのも嬉しかったし、当日には、サプライズで大栈橋から、黄色のスカーフを振って見送ってくれるという、横浜っ子らしい感動的なシチュエーションを演出してくれて、とても嬉しかった。

一日だけ国外に寄港するが、その他は全て日本寄港にて、「なんらかのアクシデントがあっても、戻るという交通手段が容易」なので、安心して出発できた。また、航海中は、海外扱いにて、「携帯電話を切る」ということも、リフレッシュにつながった。

その寄港地の一つに広島があり、大学四年生の夏休みに、プロポーズを受けた「広島平和記念公園のモニュメント」の前で、全く同じ立ち位置で、記念写真も撮った。

そこで、今回の寄稿は、この念願の船旅が、実現する大きな誘因となったと思われる「『家族の歴史を綴った一冊のアルバムを作成する』という家族写真家であるカメラマン夫婦との、一年間の協働プロジェクト」を、ふりかえりたいと思う。

### 家族と写真の持つ力

P147~

## 団士郎

「家族の練習問題 第8巻」が12月1日に発売になりました。2006年から、14年かけて第8巻。遠い道のりですが、まだ続きます。読んで下さる方があればこそです。

雑誌の連載や幼稚園誌などへの掲載も引き続きしています。

貴方の施設や園などの広報誌にも掲載、連載をしてみられてはどうですか? 「家族」は今日社会の一番大きなテーマだと言って過言ではない状況です。

その学習はなかなか行われず、問題ばかり起こして、その対応に大わらわというのは社会全体に知恵が足りないと思います。家族はずっと昔から、体験学習的に学ぶものでした。

話は変わりますが、関東、東北の台風、洪水の被害は甚大でした。関西エリアは有り難いことに今年は、被害もなく過ごせたと思っています。ところがどっこい、団遊に会って話していたら、千葉の倉庫業者に預けてあった「家族の練習問題」2000冊が水没したというのです。エエエーッ! 自分にだけは起こらないなんて思い込みは駄目だと、あらためて思いました。急にバックナンバー、残り僅か! なんてことになったのでしょうか?

お互い、いつ何があるか分かりません。だから毎日を丁寧に過ごしましょう。



## 「続・家族理解入門」

P45～

### 鶴谷 圭一

10月から幼児教育、保育の無償化が始まり、3歳以上で幼児教育施設に通う全ての子どもの保育料が無料になりました。

まず乳幼児保育・教育施設を利用する際の子どもの分類について認識して下さい。

3号＝0～3歳の保育園等に通う乳児

2号＝3歳以上の保育施設に通う幼児（就労や介護等で長時間保育を認可された世帯の子ども）

1号＝3歳以上の幼児教育施設に通う幼児（いわゆる専業主婦世帯の子ども、主に幼稚園利用）、今までこの分類でした。

保育園の2歳児以下は3号認定児です。今まで通り保育料がかかります。その2歳児は年度途中に3歳になります。3号認定児だったら保育料はそのままです。しかし幼稚園や認定こども園の満3歳児クラスに1号で入れれば無償化の対象です。生まれ月によっては年間数十万円の差が生じます。

無償化とともに新2号が生まれました。新2号は、幼稚園などの預かり保育の利用料の一部が無料になる認定区分です。1号だけパート等で働いている世帯が条件を整えて申請すれば認定を受けることができます。ただし、満3歳はこの新2号という制度は対象外です。

さらに！、今まで保育園は保育料に含まれていた給食費（副食費＝おかず）が実費になりました。

これは学校給食と同じで正当化されたと僕は考えますが、所得の低い世帯や国の定める第3子にあたる子どもは副食費免除となりました。

無償化になったり、免除になること自体は悪いことではありません。しかし厚労省、文科省、内閣府、そして幼稚園や保育園

団体の綱引きによって、現行制度をベースに子育て世帯の皆さんに良いように！と官僚の皆さんが知恵を絞りに絞って複雑な制度になってしまいました。

この事実が対象年齢のお子さんがない方にどれほど知れ渡っているかわかりませんが、地方行政や保育施設はとんでもなく事務量が増えました。

お母さん方は、子どもを預けるのにソロバンをはじくようになりました。保育士は疲弊してどんどん退職しているというニュースが流れます。

過渡期、過渡期でありますように…と思いつつ日本の乳幼児教育の環境が向上するのを願いつつ忙しい日々を送っています。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール [office@haramachi-ki.jp](mailto:office@haramachi-ki.jp)

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

### 幼稚園の現場から

P59～

### 水野スウ

大学を出てから50年目！の同窓会に日帰りで行ってきました。会場がニューオータニってのが、なんともシュール。桜を見る会前夜の会場は、同窓会の4倍はありそうなく近くのお部屋だったらしいけど。

トンボ帰りしてでも行きたかったのは、4年前のクラス会で数十年ぶりに再会したクラスメートたちと、以来、学生のころとはまったく違う関わり方ができるようになっていたから。そのおかげもあって、昨年は母校で、「平和を求める日本女子大有志の会」主催の講演会で憲法の話をする事ができたんです。その講演会のためいろいろ働きかけてくれた同級生たちに、顔を見て、じかにありがとうを言いたくて、今回の東京行き。

大学で、中高で、教師だった人や、男女雇用機会均等法ができる前から一線で働いてきた彼女たちの多くが、私のしていること、～紅茶の時間のこと、2冊のけんぼうBOOKを書いたこと、全国に憲法のお話の出前に行っていること etc.～を、大事だねと認め、応援してくれているのが伝わってきて、それは今の私へのおおいはげましになりました。

もちろん、超久しぶりに会う人もたくさん。憲法記念日の朝日新聞「ひと」であなたを見たよ！と言う人もいる一方で、〇〇大学名誉教授、の名刺を上から目線で渡す人たちもいる。ただ嬉しい、36年紅茶の時間をしてきた私には、平ら、が信条&身上。どんな経歴の同級生とあっても、私はわたしてでいられる。肩書きなし、無所属は、ある意味わたしの誇りだ、ってこと、あらためて感じました。その辺りをわかってくれる同級生たちと、たがいにリスペクトしあえたのもまたうれしきこと。

それにしても。私がずっと金沢あたりで暮らしているってことが、絶対信じられない！いつか帰ってくるよばかり思ってた（東京に、って意味か？）と言う人が、今回も少なくなかったです。

うんうん、そうだろうねえ。大学時代の私はたしかに、東京以外では生きられない子にみえてたろうし、私自身、そう思ってた。ただも石川に暮らして45年。私なりに自分のまわりを耕し続けてきて、自分のしたいことがずっとできていること、それに昨今のメディア環境の発達で、地方と都会の差はもはやさほどないこと。モノもヒトも情報もイベントも、東京ほど多すぎず、ほどよいサイズの地方都市で暮らすことは、かえって現在の私にはあっているのかもしれないんだよ。そんなこんなも再認識させられた、東京の同窓会でした。

\*\*\*\*\*

さて今回のマガジンでは、庄内・鶴岡での、出前に呼ぶ側と呼ばれる側のコラボについて書いてみました。どっちも互いに受け身じゃなく、がっぱり四つに組んで、中身の濃い出前が実現したと思うので、そのあたりのこと誌上コラボで記録したのが、今号。お読みいただけたらうれしいです。

### きもちは言葉をさがしている

P88～

### 荒木晃子

10月初旬、20年以上暮らした豊中市（大阪府）の自宅マンションを処分し、奈良県の一戸建てに転居した。新居といっても、築30年、昭和の香りがする木造建築で、今は亡き両親が残したものだ。

一階の、小さな庭を見渡す縁側の雪見障子からは、まるで、冬の訪れを知らせて

くれているかのように膨らみ始めた寒椿のつぼみを見ていると、寒くなると艶やかに咲き誇る紅の椿の花に、真っ白な雪帽子を乗せた風景がよみがえった。縁側に面した和室に正座し、茶を立てる凜とした母と、奥の掘りごたつに座り、母の背中越しに椿を愛でる父の姿が目に見えぬ。

「人間は、地に足をつけた暮らしをしないとイケないよ」そう言って、マンションでの同居を拒むがこんな父でもあった。

さて、私といえば、引越し以来、毎晩、両親の仏壇に手を合わせ、11月に入ってもなお、封を開けられていない段ボールを横目にPCIに向かう日々を送っている。何十年ぶりの引っ越しで、20年間に蓄積された、要るもの/要らないものをとりあえず段ボールに詰めて持ってきた結果だ。引っ越しの前に整理する時間などあるはずもない。日仏シンポを無事終えたあとは、気力・体力・精根尽き果てて寝込んでしまった。おかげで、体重が10キロ近く落ち、20年前のジーンズが入るようになったのだから、よしとしよう。体力は徐々に回復しつつあるが、一向に能力が回復できないようなので、今回は原稿をお休みします。

#### 生殖医療と家族援助 休載

## 中村 周平

今年9月20日に開幕した、ラグビーワールドカップ日本開催は、日本代表の初の決勝トーナメント進出など、これまでラグビーを知らなかった多くの人達にもインパクトを残す結果となりました。超満員のスタジアムで選手のプレー一つ一つに歓声が上がるとは、一ラグビーファンとして胸が熱くなりました。

この対人援助学マガジンの短信中で、以前ラグビーワールドカップまでに何か今の研究を形にしたいと述べていたことがありました。結果的に、それを実現することはできませんでした。ただ、多くの方々にご協力いただきながら、少しずつ形になっている自身の研究を、これからもひたむきに続けていくことが、一番必要なプロセスだと感じています。

#### ノーサイド P97~

## 見野 大介

気づけば今年もあと少しで終わり。展示会は12月に東京でする二人展がラストで、あとはお待ちせしている注文を年内の内にどれだけ納めることができるか。クリスマスまでにはなんとか目途を立てて、スッキリとした気持ちで年末の餅つきを楽しみたいですね。

#### ハチドリの器 P4

## 浦田 雅夫

2019年11月23、24日、和歌山で子どもシェルター全国ネットワーク会議が開かれ久しぶりに参加させていただいたのですが、全国各地での広がりに驚きました。新幹線のぞみの停車駅にしかないといわれていたのも、いまや昔。弁護士が中心になって制度の狭間で行き場のない若者を支援するシェルター。各地での取り組みに敬服するとともに、京都でもまだまだできることが、やらねばならないことがあると思いました。

#### 社会的養護の新展開 P57~

## 千葉晃央

10時ぐらいに阪急南茨木駅に到着。立命館大学いばらきキャンパスへ向かい対人援助学会11回大会に参加。



受付では長年、学会のサポート、研究会の活動を支えてくださった山口さんに再会。うれしい。早速、ポスター発表を見に行く。東海大学の有沢先生のところへ。いつもグループでの実践を発表して下さるので毎回楽しみ。今回も丁寧に資料まで提供して伝えてくださる。「対人援助学会の研究会の再開は？」ともお声がけいただいた。有沢先生は複数回、東海大学から京都駅のキャンパスプラザの研究会に来てくださっていた方であり、あらためて感謝である。

今日は大会なので理事会、総会もあり。研究会の状況を伝えなくてはならない。研究会と一緒に担当してきた中島弘美先生

は不参加。対人援助学マガジン編集部も、編集長岡先生は多忙のため不参加。大谷さんも都合が合わず欠席。研究会、マガジン共に千葉が発表することになった。基調講演の枝廣さんのお話は効果が小学生よりも中学生に顕著であるということがとても面白かった。仕組みも納得。

昼食を取りながら理事会。研究会、マガジンの状況を伝える。10年が経過して、様々なことがあった。

午後からは寺田弘志さんのワークショップ「体の対人援助の新展開」に参加。心理学と接骨院。心も体も対象となれば興味はわくのは当然。体をみる理屈は初めてのことばかりで興味深い。そして同じ症状でも、その症状の成り立ちの千差万別具合はすごい。終了後、寺田さんとお話。共通の話題たくさん！二つ目のワークショップは村本邦子先生、河野暁子さんの「9年目の福島、34年目のチェルノブイリ」一言では語りつくせない現地での体験とその提示の仕方に学びが山盛り。「コミュニティ福島」が凄まじい。

終了後は総会。交流会。交流会では飲食はなしで、今後の学会について参加者全員発言。さて、来年はどうなりますか。

#### 知的障害者の労働現場 P16~

## 中村正

社会的養育プロジェクトに取り組んでいる。日本財団から研究資金をいただきフォスタリングソーシャルワーカー養成講座をメインにした企画となっている。厚生労働省が社会的養育ビジョンを打ち出したのはいいが、それを地域で実現するだけの体制が未整備なので、それを具体化するためのものとして里親支援をテーマにした講座である。8月からはじまり15回分の講義とセミナーを組んでいる。一回4時間である。定員20名で費用はひとり85000円。すぐに埋まった。

対人援助学会にかかわる本マガジン執筆者も講師に迎えている。さらに里親、里子、特別養子縁組の養子という当事者を招いての体験を聞く機会も用意した。受講生は、児童相談所の里親担当ワーカー、児童養護施設職員等、多様である。

私は全体の統括をしている。私は極論

風にいえば、すべて親は里親的であるべきだと思っている。18歳で成人にするように家庭的養育があり、地域での社会的養育の仕組みのなかで子どもは育つし、子どももまた別の子どもにかかわりつつ共に育つことが大切だと思う。家庭的養育と社会的養育のバランスや地域での育て上げ、子どもが主体となること、血縁主義をのりこえること、実親と養親との関係をきらないこと、真実告知の仕方、ライフストーリーワークの勉強等、多様なことが学びとなっている。年度末にむけて参加者の事例発表を中心とした卒業研究があり、修了式も予定している。家族についての体系的な学びの場になっている。これから5年続ける予定である。その時には100名のフォスタリングソーシャルワーカーが活躍しているはずだ。未来に向かう楽しみである。

### 臨床社会学の方法 P20～

## 脇野 千恵

現在、某市の適応指導教室の支援員をしています。いわゆる不登校生と言われる子どもたちのための居場所で、一緒に勉強したり、ゲームをしたり、スポーツをしたりしています。最近、学校には不登校のための別室が設置され、「別室登校」する児童生徒がいますが、そこにも通えない子が学校外の適応教室にやってきました。

教人ですが、毎日来る子もいれば、週2日という子もいます。支援員ですから、指導者ではなく、子どもと対等な関係でいられるのが何よりです。勉強の強制はありません。月一回の調理実習、野菜づくり、映画を鑑賞、たまにボーリングを体験することも。できるだけ、色々な体験や経験をさせたいと思っています。10年後、この子どもたちはどんな人生を歩んでいるのでしょうか…。心配でもあり、楽しみでもあります。

### こころ日記「ぼちぼち」part II P241～

## 竹中 尚文

ほんの数日前、駐車違反切符を切られた。この前に駐車違反をしたのは20年ほど前になる。

門徒(浄土真宗では、檀家とよばず門徒

という)さんのマンションを出てきたら、違反切符が貼ってあった。罰金も払わねばならないけど、ホッとした気分だった。

門徒さんとの電話のやり取りの中で、「死にたい」という言葉がでた。彼女はいくつかの問題を抱えていて、その一つひとつを少しずつ解きほぐさねばならない状況である。根気よく、一つひとつ。少しずつ解きほぐすしかない。根気よく、くじけずに頑張るしかない。この半月が勝負どころだと思っていた。ここで「死にたい」はないよなあと思っていた。彼女が若いので、私は妻と一緒に彼女のマンションを訪ねた。彼女はここで踏ん張れそうだった。ほっとした。駐車違反は私を不愉快にさせなかった。

数年前、癌で亡くなったおじいさんがいました。おじいさんが亡くなる一年ほど前に、こんな話をしてくれた。彼は五十年ほど前に、交通事故で息子を亡くした。その数年後、彼の小さな会社が倒産しそうになった。彼は資金繰りに奔走するが、思うようにならず、彼は途方にくれて、死を考えた。死ぬ前に息子の交通事故現場を訪れた。しばらくの間、そこで過ごすうちに、もう一度頑張ってみようと思った。ここで死んだら、息子に会わず顔がないと思った。



彼にとって、息子の死はとても悲しいことだった。一方でとても大切なことだった。親が子どもの葬式をだすのは、とても悲しいことである。同時にそれはとても大切なことである。

最近、「♪ちいさな ♪おそうしき」というCMが流れると気分が悪くなる。お葬式の大い小さいはどうでもいい。カネの話ばかりだ。それより心を込めてのお葬式であるのか。時間が経過しても大切な死と思えるお葬式をしてほしい。

### 『盆踊り漫遊』 P248～

## 乾 明紀

2019年3月発行の36号以来の投稿になります。ゴールデンウィークにちょっとした手術をし、夏に5歳の長男が自動車事故に遭うなどしたため、仕事の調子を崩し、今年は2本しか投稿できませんでした。当然ながらマネジメントを上手にすれば投稿できたでしょうからその点は大いに反省しているのですが、こうやってマガジンに復帰できたことに“ホッ”としています。もう師走ですね。皆様、良い年をお迎えください。

### 周旋家日記 P107～

## サトウタツヤ

某インターネット百科事典に関するページで、「ノート:佐藤達哉?」というものを見つけた。なんと同姓同名の扱いについて皆で議論している。内容をどうするか、というだけでなく、人の意見をどれくらい待つか(7日か14日か)などということも議論されている。

何が問題だったかという、サクセス奏者の佐藤達哉氏と心理学者の佐藤達哉氏の氏名表記なのであった。この議論は、2017年5月6日(土)12:15(UTC)に以下の解決案が提案されていた。「佐藤達哉」→「サトウタツヤ」に改名する。「佐藤達哉 - 心理学者。立命館大学の教授」は「サトウタツヤの本名」とする。

この1つの項目だけでもこんなに真剣に議論した末に改名表示がなされているとしたら、世界中でいったいどれだけの努力がなされているのか、本当に気が遠くなるような話ではないだろうか。皆さんの努力に敬意を表したい。

参考サイト

[https://www.wikiwand.com/ja/ノート:佐藤達哉?fbclid=IwAR3N65413RybnPTanrOAMCPgZPzvoDJ1qEP7iq5kamb\\_66pRKmr1fcO0pL4](https://www.wikiwand.com/ja/ノート:佐藤達哉?fbclid=IwAR3N65413RybnPTanrOAMCPgZPzvoDJ1qEP7iq5kamb_66pRKmr1fcO0pL4)

### 対人援助学&心理学の縦横無尽 P80～